

8月の生活表

2024年 8月

聖マリア幼稚園

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

月主題：平和を祈る

保育日数（17日）

月目標：＜3歳児＞

- ・家族、友だち、保育者との交わりを心地よく感じる中で、神様が作ってくださる平和な世界を知る
- ・異年齢や少人数の中でゆったりと過ごす
- ・朝、夕の涼しい時間に夏の風、自然に触れる機会を持つ

＜4・5歳児＞

- ・身近なことから平和を考え、祈り、世界にも目を向けていく
- ・ゆったりとした時間の中で、自分のやりたいことに取り組む。互いの思いを聞き合って過ごす
- ・暑さの中でも涼しい時間や場所を見つけ、水分補給や服装に気をつけて過ごす。

今年度も明日をもって1学期を終えようとしています。保護者の皆様には、幼稚園へのご理解・多数のご協力を賜り、明日の「お楽しみ会」を最終に平常保育を終了させていただけますこと感謝でございます。明日の子どもたちの姿が、入園・進級をしての日々の生活の中から、各々の成長を見届けて頂けることと思います。子どもさんによっては、様々な場面を通して、存分にその子らしさが発揮できるかといえば、必ずしもそうではありません。各々の性格もあり、わかっているけど躊躇して、考えすぎて、たじろぐ場面も見取れます。しかし、子どもたちは一つひとつの経験の上に立ち、今があります。大人は「やればできるのに、何故1歩前に進まない？」と思ってしまうかもしれませんが、その場その場は、各々のお子さんにとり「始めて」のことが往々にしてあるものなのです。子どもなりにいろんな場数を踏み、全く同じではない経験も「これは前にしたことと同じようなことなんだ」と自分で消化し、対応できていくことが大切になってくると思います。今になるまでに多くを経験し、その感覚の中で自分で精査し、「やってみよう」と思えるのかどうかですね。その為にも、子どもたち一人一人が「主体的」に取り組もうとすることはとても大切で、重要なことだと考えます。新聞にこんな記事がありました。「子どもが自然に触れて外で遊ぶ」ことの大切さ、は視力（瞳の奥のピントを調整する筋肉が育まれる）・運動能力（自分の体をコントロールする力の育み→自己肯定感へ）・言葉の力（自然に触れあう中で体を動かし、仲間と遊んだ楽しい気分は、さまざまな感覚を体得し、その感覚は言葉のセンスにつながる）というようなことが書かれていました。小学生になると、存分に体を動かして外遊びができない状態も生まれているとか。（公園での決まりがある＝ボールが使えない・群れて遊んでいると近所からうるさいと文句を言われる、高学年になると塾通いで一緒に遊べる友達がいらない）ことが常態化しつつあり、好むと好まざるに関わらず、やむなく家の中でゲーム機やスマホをいじったりするということにもなっているという現状があるようです。子どもの遊びは、自発的なものであり、大脳が生き生きと働いている状態。前回記しました「共主体」と同様、共有した型の幼児教育・保育を受けた子どもたちは、読解力にも優れ、絵本を読む体験が豊かで、造形遊び、ブロック遊びも多く、巧緻性にも優れているという追跡結果があるそうです。自発的な遊びを通して、社会性・自制心・実行力・挑戦力などの「非認知能力」が育まれる。目標を達成した達成感は大きく、「楽習体験」により自己肯定感や探究心が高まると言われている。と書かれていました。要するに、子どもたちは遊ばなきゃダメなんですね。与えられる楽しみのみではなく、自分が関わることにより得られる楽しみあって欲しいですね。近場での水遊びや木陰の公園での遊び等々。夏休みがチャンスです。常々出来ない体を使う遊び・絵本の読み聞かせ等、親子で楽しんで下さいね

《チャプレンコーナー》

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

年聖句：わたしは道であり、真理であり、命である

月聖句：人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい

(マタイによる福音書 7:12)

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」これは、キリスト教の「黄金律」と呼ばれる教えです。私たちの生活をつかさどる規律の中で、最も大切に、全人類が共通して同意し、実行を志す教え、という意味です。まことにその通りで、この教えを実行すれば世界は平和になることでしょう。

けれども実は、私たちの中では、この教えはあまり語られず、少し違うものが深く広がっています。それは、「自分がされて嫌なことは、人にしてはならない」というものです。これも大切な教えです。人を傷つけないことは、とても大事なことです。けれども、聖書の教えとは、方向性が、ちょうど正反対のような気がします。

聖書全体の教えは、「悪いことをするな」よりも、「良いことを行え」という方に力を入れているように思います。聖書の登場人物は、たくさん失敗します。そしてそのたびに反省し、悔い改めます。宗教改革者のマルチン・ルターは、次の言葉を残しています。「大胆に罪を犯せ。そして、大胆に悔い改め、大胆に祈れ。」失敗や間違いを犯した時に、私たちは反省し、そして成長していくのでしょうか。「罪を犯すことを恐れる」のも大事ですが、「良いことをしないことを恐れる」ことも大事だと思います。

子どもたちは、数々の失敗を繰り返しながら成長していきます。ケンカや意地悪をしたときには、謝って反省します。そしてもっと仲良くなります。子どもにできる事が、大人はなかなかできないようです。神様の教えと、子どもの姿に教えられて、平和を目指してゆきたいです。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆夏休みも日々のお祈りを続けましょう。(一日一度で構いません)

- ・幼稚園でのお祈りの習慣を保てるようにしてみましょう。

家族はもとより、お友達やご親戚、また新聞やニュースで報道される内容などにも触れて、お祈りの時を持ってみましょう。

(寝る前が、一日を振り返りながら、心落ち着けてお祈りできそうですね。)

(ありがとう・ごめんなさい・お守りください・お願いします)の言葉を通して。

☆夏休み中の事故に気をつけさせましょう。

- ・歩行中・自転車乗車中・横断歩道を渡っている時・一人でお買い物に行く時・乗り物の乗降時・信号の確認・前後左右の確認を子ども自身に気付かせましょう。
- ・どんな時にも、いつでも周りの危険を感じ、俊敏な動きができるように、常日頃から心と身を鍛えましょう。

(外での体を動かす遊び＝縄跳び・ボール遊び・鬼ごっこ等)

☆心身共に健康で楽しい夏休みを過ごしましょう。

- ・一学期に身につけた生活習慣を崩させない様に気をつけてあげましょう。
- ・熱中症・感染症に気をつけ、自らでも取り組める方法にも気づかせましょう。
- ・酷暑の中、不要不急の外出は控えましょう。特に小さいお子さんのバギー、歩行等反射熱の被害予防、またプールは熱中症の落とし穴、特に気を付けましょう。
- ・汗をかけた後、自分でも気付くように、着替えもこまめに、暴飲暴食を避け、自分自身で身を守る術を親子でお考えましょう。

☆今年の夏！ 親子で何に取り組もうと計画されていますか？

- ・幼稚園時代だからこそ、たっぷり有る時間を有効に使ってみましょう。
- ・その一つに毎日一回は親子で向き合い、絵本・粘土・お絵描き・工作・近くの公園での鉄棒・滑り台(遊具も熱に犯されています!! 気をつけて)などを通して、子供の成長を見つめてみましょう。
- ・子どもが自信を持てる何かに取り組めるように、また最後まで根気よく取り組めるようなゆったりとした時間を十分に共有し、計画を立てて過ごしてみましょう。
- ・特に縁組は、宿題という課せられた課題なく過ごせるのも、今年限り? ですね。大いにお楽しみ下さい。思い出作り(この遊びを通して何を経験させたいのか?)に、子どもさんの意見も取り入れて考えましょう。

[クラスだより]

<花組>

京都の夏と言えば、祇園祭。暑い、雨が降りそう、人が多いとわかっていても子どもたちに一目みせてあげたいとお出ましになったご家族も多くおられたのではないのでしょうか。夏を感じる...海・プール・浴衣・かき氷・花火・スイカ、等々...数えきれませんが、夏休みの後半になれば、地藏盆・大文字の送り火となにかちょっと何か寂しいような、何かまだまだ終われない、何とも言えない気持ちになる。それくらい、夏（夏休み）を満喫出来たら嬉しいですね。衣食住で、五感で夏を子どもたちが感じられることができれば素晴らしいと思います。子どもたちにとっては、宿題のないただただ楽しいばかりの幼児期の夏休みですから！沢山思い出が出来ますように。もちろん、幼稚園の夏季保育に登園する子どもたちも多くあります！夏の幼稚園！思う存分楽しみたいと思います。

桜の綺麗な4月に入園した13名の子どもたちに、お友だちが一人また一人と増えて1学期最終17名になりました。残念ながら1名のお友だちは短期帰国で来てくれていた為、寂しくなりますが、また来年お会いできることを願ってしばしお別れです。そして、夏休み中に1名の小花ちゃん、2学期9月には2名の小花ちゃんが・・・と大所帯！になる予定です。どうぞ、子どもたちの新しい出会いに、人的環境の変化から生まれる子どもたちの思いをしっかりと見逃すことのないように、子どもたちの思いに寄り添ってゆきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。沢山ある幼稚園・保育園から、マリアに出会い、入園を決めていただき大切なお子たちを毎日送り出して下さる保護者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。チャブレン先生が5月に書いてられた「子どもの成長」について、改めて、読み返しました。そして、1学期の間にもひとり一人、成長はそれぞれですが、みんな本当に自分なりの成長をしていることを感じる事ができました。感謝したいと思います。

猛暑日や真夏日、熱中症警戒アラート、ゲリラ豪雨...気を付けなければいけないことが沢山ありますが、まずは早寝・早起き・朝ご飯、と言われる基本的な生活習慣・生活リズムを確保することが子どもたちを守る一番大切なことですね。プールのチェック表を拝見し、朝に排便されていないことが多いことが気になりました。また、この一学期の間に咳や鼻水、目やにの気になる子どもたちが本当に多く、またその症状が長く続いていることも心配でした。まさか？の感染症が想定外の時期に流行することも珍しくなくなりました。今一度、厳しい夏を健康に楽しく乗り切る為にも、意識的に過ごしていただきたいと思います。どうぞご家族の皆様もお身体ご無理のないように厳しい夏をお過ごしください。

最後になりましたが、この1学期の間、様々なところでのご理解とご協力を賜りましたことに改めて心より御礼申し上げます。至らない点多々あったかと思います。また2学期に元気な子どもたちと再会出来ますことを楽しみにしております。幼稚園の間の宿題のない夏休み！！遊ぶこと！思い出作りが宿題かな！？どうぞご家族で素敵な夏休みをお過ごしくださいませ。

皆様の健康と安全を心よりお祈りいたしております。

<赤組>

京都では毎年のことながら、梅雨のジメジメに猛暑日、、、。暑さ対策！と構えていても夏の暑さにはやられてしまいそうになります。子どもたちは、園庭に出て暑くなったら必ず水分補給！汗をかいたら日陰に入ってちょっと休憩！とご自分たちで考えて暑さに対応しています。「汗いっぱいかいちゃった」と笑いながら、なぜか得意気に教えてくれる子どもたち。暑いことでさえも楽しんでいる様子です。

本格的な夏を前に、幼稚園では1学期終了と共に「夏のお楽しみ会」があります。今回が初めてのお楽しみ会のお友だちもいるので、流れや内容を分級でお話しました。内容に関してはすでに保育内で、歌と楽器遊びをしていたので「うんうん」と聞いて理解していた子どもたち。「誰をお招きするんだろう」の問いかけに対して去年経験したお友だちがすかさず「おとうさま！」と答えてくれました。それを聞いた他のお友だちも「あ！おかあさまもやね！」と教えてくれます。丁寧な言い方に思わず笑みがこぼれましたが、子どもたちなりに考え「お招き」という言葉に対しての返答だったんだろうなと感じました。このように子どもたちは、決してふざける場ではないこと、お招きして見て頂くという「発表会」の雰囲気を感じて理解し、取り組んでいるかと思います。お歌が大好きな赤組さん。披露曲は子どもたちが特に好きな2曲です。また、リズムバンドはご自分たちのやりたい楽器を担っています。一生懸命で、可愛らしいその様子をご覧くださいね。発表としてはこの2種ですが、それ以外のふとした瞬間、お友だちとの関わりなども見ていただけたらと思います。4ヶ月の間での子どもたちの成長、こんな一面があったんだ！と、もしかしたらご家庭と幼稚園での異なる姿もあるかもしれません。ぜひ、お楽しみにして下さいね。そして、終わった後には、大いに褒めて認めてあげて下さい！

そんな赤組さんの1人の女の子が突然「神様にお手紙書きたい」と。神様へのお手紙は以前、緑組さんが書いてお返事がきていたのを教えてもらい、その様子を見ていたのです。「もちろん！」と紙を渡し、内容はその子に任せました。小礼拝堂に置いてお祈りし、次の日を待ちました。次の日の朝、小礼拝堂へ向かうと「あった！」とお返事を見つけるとすぐに座って読み上げ、「神様、ありがとう」と一言。昼食時にその子のお話から「神様」のお話になりました。「神様って、なんか上にいるんだよね」「どこかわかんないけど（見上げて指をさしながら）あそこらへんじゃない？」と上から見守って下さっていると感じていた子どもたち。上とは限らずいつも近くで見守って下さっている神様。目に見えない存在だけれど、その神様の存在が子どもたちの中で大きくなり、お祈りが出来ること、嬉しく思いました。いつも私たちの側で見守って下さっている神様に感謝します。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、1学期の間、幼稚園にご理解、ご協力頂きましてありがとうございました。至らぬ点多々あったかと思いますが、無事に1学期を終えられること、厚く御礼申し上げます。また2学期に元気いっぱいの子どもたちに会えるのを楽しみにしています。

<緑組>

梅雨末期の大雨、今年も既にたくさんの災害が起こっています。夏になると必ずと言ってよいほど、日本のどこかで水害や土砂崩れが起こるようになりました。地震も頻回になり、言い知れない不安を覚えるこの頃です。加えて梅雨が明ければ猛暑・酷暑と言われる「夏」がやってきます。これもまた「災害級」と言われるのですから、明後日からの夏休みも備えが必要になりますね。それにしても、1学期がもう終わりだなんて...。信じられないくらいの思いで今、生活表を書いています。緑組のバッチを身に着つけてからもう4か月が経ったなんて...でも、ただただ過ぎたのではなく、自分を律するために生活のいろんなところで「自分で考える」ことを意識するようにもなりました。家ではまだまだ甘えていたい年齢ではありますが、一歩外に出て子どもの「社会」に身を置いたときに、家と同じようにはいかないことを子どもなりにわかっているからこそ、「どうあるべきか？」を子どもなりに考えて自制したり、挑戦するなかで、同じ思いを共有し相談し「一緒に」取り組もうとする土台ができてきたように思います。明日、お聞かせする歌やリズムバンドも、曲目の決定や楽器の調整も子どもたちのアイデアを活かしました。発表会という機会があるとい前提をもとに、何が歌いたいのか、なぜそう思うのか？そんなことを子どもたちの日頃の話のなかで築いてきたことで、練習期間が僅かであっても「いざ」という時には、「これでいくぞっ！」と準備もスムーズに取り組めるところはさすがだなあと感心するところです。同時に「一人」で挑戦する機会を互いに意識し合い「私は〇〇するから□□は△△に譲ってあげる」と折り合いをつけ、相手に「委ねる」ことを選択肢のひとつにできたことは、大きな成長のように思います。「本当はやりたかったこと」が発表会の機会に限らず、普段の生活のなかでもあったと思います。必ずしも自分の願い通りにはいかないことを、どう解決していくか...子どもの社会にあって子どもなりのルールの中で育ち合えた1学期でもありました。大人が子どもの想いに「寄り添う」ことは、ある程度予見できるので準備が出来ます。でも、子ども同士も「相手に寄り添う」ことが大事だと思って、毎日を過ごしてきました。相手に目を向ける、関心をもつ、察する...は日頃の関りの中で身に付けていくものです。相手の想いを想像する...この夏、各々が特別の経験をするこころでしょう。嬉しいこと楽しいこと、ちょっと困ったこと、嫌なこと、悲しいことも。それらの経験を積んで、心の壁を増やした子どもたちに（全員揃って会える）9月を楽しみにしています。保護者の皆様、園生活の1/3が終わってしまいました。いよいよ就学が子ども生活に目に見えてきます。宿題がない、しなければならないことに追われない夏は今年が最後です。どうぞ、貴重な夏の時間を有意義にお楽しみくださいませ。そして1学期間、子どもを真ん中に、ご理解ご協力くださいましたことを感謝申し上げます、ありがとうございました。

どうぞ皆様、猛暑、酷暑の日々ご無理をされませんように良き夏をお過ごしください。